



# All Rikkyo Tennis

## セントポールテニスクラブ会報

発行所  
セントポールテニスクラブ

発行人 白 寄 誠 爾  
田 口 陽 平  
大 岩 紗 織

# 男子・女子共入替戦に臨むも無念の残留

## 創部100周年まであと3年



### 「新リーダーシップ 3原則」

部長 日向野 幹也

最近、学生・社会人向けのリーダーシップ行動の三基準を改訂したのでそれについて書かせてもらいたい。今度のバージョンのほうが覚えやすいし基本的だ。部活動で日常的に意識しなら使ってほしい。

(1) 成果目標を共有する。これは自分で考え出したものでもよいし、誰かが言い出したことを自分の目標とする(オーナーになる)のでもよい。また、これから1時間の練習やミーティングの成果目標と、明日までの成果目標と、来週までの成果目標というふうに重層的に成果目標があってももちろん構わない。そして、設定するだけではなくてこれを他人と共有しなくてはならない。共有が

不足しているリーダーシップ失敗チームワーク失敗はしばしば起きる。

(2) その成果目標実現のために自分がまず行動する。これは一番分りやすいだろう。ただ、(1)の成果目標無しに「まずやってみよう」などというのは短期間で終了し、(1)の設定共有は行わなくてはならない。

(3) 自分に続いて周囲の他人にも動いてもらうために他人を支援し、それでも動かない人には、動けない原因になつていないことを取り除いてあげる。これは(1)の「共有」と関係があつて、共有をしつかりすればそれだけで動いてくれる人もいるし、動きづらいう原因を取り除くくわいの支援が必要なものもある。

上記の(1)―(3)を、権限もなく、役職にもついていない人が実行できて初めて真のリーダーシップ行動ということになる。権限もなく役職

にもついていないときに(1)から(3)まで全てできる人に、後から権限を与える役職につけるとするのが昇進人事の王道である。逆に、いつも罰をちらつかせた命令で他人を動かしているようでは、やがて誰も進んでは付いてこない、つまり巻き込まれたがらなくなる。

既に権限を持ち役職についている人にとって、この3原則はどう役立つだろうか。新しくテニス部幹部になった諸君は、こう自分に問うてほしい。「自分たちは、幹部としての役職や権限が仮になくても(1)―(3)を実行できるだろうか?」もしできなさそうなのがするならば何が足りないのだろうか。役職や権限がある場合でも(1)(2)は常に実行しなくてはならないし、(3)についてもいつも罰をちらつかせていては信頼は得られない。また、下級生はどうだろうか。上に書いたように、権限も役職もない下級生でも(1)―(3)は常に実行できるはずのことである。日常の仕事改善するための提案を仲間間で練って上級生に持つていくのはまさにそれである。ここで権限のある上級生のすべきことがある。第一に、下級生の提案を歓迎すべきである。それは(1)の成果のために重要なことである。第二に、提案を採用したら、提案実行の結果が悪かった場合に絶対に下級生だけに罰を与えてはいけない。いったん採用したらそれは権限者・役職者がともに(どちらかという)と権限者・役職者が主に)結果に責任を持たねばならないのである。逆に、採用実行によって良い結果が出たら、採用した自分たちが勝ち誇るのではなく、提案した下級生を賞賛してなくてはならない。これが上級生にとつての(3)なのである。

### 「会長挨拶」

S42年卒 倉光 哲

OB OGの皆様は於かれましては益々ご健康で活躍の事とお慶び申し上げます。本年度はリーグ戦においては男子が二部との入替戦で3年連続敗退、女子は久々に一部復帰のチャンスを得、入替戦にのぞみましたが敗退をし、男女共上部への復帰は残念ながらなりません。また個人戦においては、女子の寺田・吉田組が春夏共にダブルスで関東学生選手権大会ベスト4、また、全日本学生選手大会において寺田選手がシングルベスト8と個人戦において久々の活躍をしてくれました。

この一年を総括してみますと、立教テニスのレベルは間違いなく上がっており、しかし、男女共一部にあるには、ある女子の現役選手が言っていた通り、「一校のテニスを今後やりまわす」という言葉に尽きるところです。すなわち男女ともストロークにおいて、立教はいまやほとんど一校に近いものがあります。しかし彼等との違いはテニスの試合に勝つためのいろいろなシゴットの引き出しが少なすぎることです。大事なポイントでのサーブミスやネットプレーによるストローク戦からのドロップショットで相手のリズムを崩すなど、これらを普段の練習から常に考え、ライバルに行えば必ず上部への復帰は達成できると確信します。

また、テニス個人競技のスポーツです。個人戦においてそれぞれが個々の力をレベルアップし、関東学生選手権選出は関東学生へ、関東学生選手はインカレへと全員が一段上がることを心がけ、リーグ戦にのぞめばおのずと結果は出るはず。この一年間、4年生は本当に良くやってくれたと思います。そして、社会人として、立教テニスで鍛えられた挨拶、礼儀、協調性など多くの事がこれからのスタートに必ず役立つであろうと確信し、今後の活躍を心より祈念しております。最後にありますが、OB OGの方々のこの一年の現役に対しての厚い愛情、ご支援に心より感謝致します。

### 「理事長挨拶」

S61年卒 山田 彰彦

理事長という大役を仰せつかったから2回目のご挨拶となります。この1年半、学校関係者の皆様・OB OG・現役学生・保護者など、テニス部に関係する方々と多くのお話をする中で、本当にファミリー的な絆の強さを感じております。テニス部に在る方々にとって、より暖かく、かつ価値のあるものにするべく微力ながら活動してまいりたいと思っております。

さて、本年度で特筆すべきことのひとつに、大学から頂く「体育会活動奨励金」の増額が挙げられます。3年ごとの申請になりましたが、昨年から藤原強化委員長が指揮のもと、学生と理事会が一体となって十数回の会合を中心に策を練りました。結果として前回比較で約2倍強の奨励金が獲得でき、今度OB OGの皆様からのご支援が大半を占める予算編成から一歩前進する事ができました。また、関係校との連携である「ART活動」も盛んになってまいりました。課題である女子高校との連携も香蘭女学校の生徒に大学生がコーチ役となって練習会を開催したりしており、入部者の増加を期待すると同時に、学生の学びの場ともなっております。また3回目になりました

小中学生対象のジュニアクリニックも招聘コーチの方々のお力に加えて、学生が主体的に関わり、参加者、保護者からもご評価を頂きました。その中で、1回目に参加された方が関係中学に合格し、テニス部員となつてくれたことは大きな成果と言えます。また、日向野部長先生のご尽力によってリーダーシップ研修も行われ、OB OG、関係高校の部員も参加し、多くの学びがありました。今後定期的に行っていければと考えております。また、上位校と比較し身体的に圧倒的な優位性が無い部員達に対し、トレーニングコーチを招聘して計画的な体力向上を図るとともに、トレーナーの方にもご協力も頂いております。また、体作りに欠かせない栄養補給に対する指導も外部の方々のご協力を得て行っており、栄養学セミナーも開催しながら、個人個人の改善が促進されるような環境作りにも取り組み始めております。一方で今年のスカウティングに関しても、多くの高校生が興味を持って練習参加も増加してきました。上位校と比較しても難しい選考条件のもと、スカウティングチームを中心に少しずつ成果も出始めております。これらの活動における関係各位にはこの場を借りて感謝申し上げます。こういった活動の源は皆様の物心両面に亘る応援があつてこそ成り立っている訳ですが、財政面では厳しい状況が続いております。今年の団体戦では残念ながら男女とも掲げた目標は達成できませんでしたが、しかし現役諸君の日々の努力と、皆様の熱いサポートの力で着実に前進していると確信しております。当部もあと3年で創部100周年を迎えます。ぜひともご関心を御寄せ頂き、部の発展に応援頂きます様、よろしくお願い致します。



去る六月十五日(土) セントポールテニスクラブ 第十八回総会が、多数のOB・OGの方々のご出席を頂き池袋キャンパスの第一食堂にて開催されました。会計報告・予算・事業計画など慎重な審議が行なわれました。総会後は現役幹部を交え和やかな懇親会が開かれました。

第十八回総会 開かれる



平成25年度役員

Table listing the names and positions of the board members for the 25th fiscal year, including the president, vice president, and various department heads.

Table listing the members of the 100th Anniversary Preparation Committee, including the chairperson and various committee members.

Table listing the members of the Current Reinforcement Department and the Tennis Department, including department heads and staff.

Table listing the members of the Current Reinforcement Committee, including the chairperson and committee members.

Table listing the members of the ART Project Committee, including the chairperson and various project members.

平成 25年度事業計画書

(自平成25年4月1日～至平成26年3月31日)

Calendar-style table detailing the schedule of activities for the 25th fiscal year, from May 15th to March 31st.

平成25年度会計予算

(自平成25年4月1日～至平成26年3月31日)

Income Statement table for the 25th fiscal year, showing budgeted and actual figures for various categories.

Expenditure Statement table for the 25th fiscal year, showing budgeted and actual figures for various categories.

Summary table for designated funds, showing current balance and usage.

●大学からの奨励金予算 (平成25年度)

Table showing the budget for university incentive funds for the 25th fiscal year, including categories like recruitment fees and national selection fees.

平成 24年度事業報告書

(自平成24年4月1日～至平成25年3月31日)

Calendar-style table detailing the schedule of activities for the 24th fiscal year, from April 14th to March 22nd.

平成24年度決算報告書

(自平成24年4月1日～至平成25年3月31日)

Income Statement table for the 24th fiscal year, showing actual figures for various categories.

Expenditure Statement table for the 24th fiscal year, showing actual figures for various categories.

Balance Sheet table for the 24th fiscal year, showing assets and liabilities.

Summary table for designated funds, showing current balance and usage.

●大学からの奨励金執行実績 (平成24年度)

Table showing the execution results of university incentive funds for the 24th fiscal year, including recruitment fees and national selection fees.

平成25年度リーグ戦結果

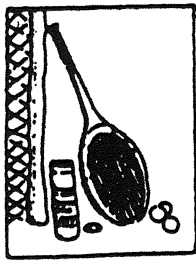
Table showing tennis league results for men's teams: 筑波大学, 立教大学, 東京農業大学, 日本体育大学, 関東学院大学, 東洋学園大学. Columns include wins/losses and ranking.

入替戦 対 駒澤大 1 - 8

平成25年度関東大学テニスリーグ第二部結果表

Table showing tennis league results for the second division of men's teams: 東洋学園大学, 立教大学, 駒澤大学, 青山学院大学, 東海大学, 日本体育大学. Columns include wins/losses and ranking.

入れ替え戦 立教大学 2-5 専修大学



「快挙と積み重ね」 S53年卒強化本部長 鷺田典
今年は立教大学テニス部の女子選手で史上初めて、4年の寺田がインカレシングルスベスト8、寺田、吉田ペアが関東学生春、夏連続ベスト4という快挙を成し遂げました。

鷺田典

H2年卒監督 山田昇

「負けたけど、まだ死んではない」

監督の立場として、個人の場面にはあまり触れたくありませんが、今年印象に残った場面は4つ(3人の「涙」と1人の「目」)でした。その中でも最も印象的なのは、女子主将寺田美邑の入替戦後の涙です。単複12勝0敗。勝負の懸った青学・駒澤戦での見事な勝利。インカレベスト8の力を如何なく発揮し、笑顔で終わってもおかしくない。その彼女が流した「悔し涙」。「悔しい」「勝たなかった」「昇格しなかった」と座り込んで泣いていた姿が鮮烈でした。彼女は個人(戦)の結果では満足していません。どれほどの「思い」でリーグ戦に臨んでいたのか?が痛いほど分かった。

澤裕貴。これも入替戦後の涙だが、遡ること3年前。彼が1年生時の夏合宿で見た合宿最終日。取巻のうちに主将となる同級生の大竹徹と試合をやらせた。試合は思わぬ一方的になり何も出さずに完敗した。そのあとにアドバイスを聞きにきた彼は泣いていた。なぜ泣いているかと問うと、「大竹にだけは負けたくない...」

その試合後はご存知の通り、2人の間に大きな差が出た。本当に、あの試合を境にして。大竹は1年生からレギュラーとなり、チームを牽引し2年生時の昇格にも貢献。単複関東学生資格者となり主将にもなった。一方寺田は、3年時でレギュラーの座をようやく掴み、少しずつ1年の夏でついに差を埋め始めた。4年生の最後の関東学生でようやくシングルスで資格者となった。迎えた最後のリーグ戦。2人にとつての最終戦で大竹が先に敗れ、彼が最後に残った。試合は惜敗したが、先に敗れた大竹や同期4年生、後輩の「思い」を背負って最後まで戦った。負けが立派だった。「来年に繋げてくれた」と思った瞬間でもあった。

最後の一人は、涙ではなく、印象的な「目」。男子1年生の鈴木純。彼は、昨年の自由選抜入試での入学時から、本校を受験し合格し入部してきた。1年生ながら唯一単複12試合に出場し、不安や恐怖を感じていた。だが、初戦はうまくスタートを切ったが、徐々にその不安の方が大きく傾き始め、スランプになり、恐らく「逃げ出した」くらいに心境が落ちたはずだ。しかし、期待が続け、プレッシャーをかけ続けた。一切甘やかさず、彼のすべての行動を見逃さないようにしていた。



男子前主将 大竹 徹



男子前主務 篠田 翔平

「負けたけど、まだ死んではない」 最後の一人は、涙ではなく、印象的な「目」。男子1年生の鈴木純。彼は、昨年の自由選抜入試での入学時から、本校を受験し合格し入部してきた。1年生ながら唯一単複12試合に出場し、不安や恐怖を感じていた。だが、初戦はうまくスタートを切ったが、徐々にその不安の方が大きく傾き始め、スランプになり、恐らく「逃げ出した」くらいに心境が落ちたはずだ。しかし、期待が続け、プレッシャーをかけ続けた。一切甘やかさず、彼のすべての行動を見逃さないようにしていた。

女子前主将 寺田 美邑



昨年度主将を務めさせていた... 寺田美邑は、昨年度主将を務めさせていた...

女子前主将 角田 芽優



前年度、主務を務めさせて... 角田芽優は、前年度主務を務めさせていた...

新幹部紹介

男子主将 鏡 健斗



本年度主将を務めさせて... 鏡健斗は、本年度主将を務めさせていた...

女子主将 金子 真奈



本年度主将を務めさせて... 金子真奈は、本年度主将を務めさせていた...

男子主務 田口 陽平



本年度主務を務めさせて... 田口陽平は、本年度主務を務めさせていた...

女子主務 大岩 紗織



本年度、主務を勤めさせて... 大岩紗織は、本年度主務を務めさせていた...

男子副将 上野 大輔



本年度副将を務めさせて... 上野大輔は、本年度副将を務めさせていた...

男子副将 横山 由騎



本年度副将を務めさせて... 横山由騎は、本年度副将を務めさせていた...

男子副将 鈴木 理大



本年度副将を務めさせて頂くことになりました。経営学部経営学科二年鈴木理大です。これから一年、どうぞ宜しくお願い致します。

女子副将 佐藤 三華



本年度、副将を務めさせていただきますことになりました。観光学部観光学科三年、佐藤三華です。

女子副将 清水 理咲



本年度、副将を務めさせていただきますことになりました。法学部政治学科二年、清水理咲です。

新入生紹介

1年 山上 修平



東京都私立立教池袋高等学校出身、経済学部経済政策学科一年、山上修平です。

1年 市川 諒



埼玉県私立川越東高等学校出身、文学部史学科一年の市川諒です。

1年 菅野 貴仁



埼玉県私立川越東高等学校出身、文学部史学科一年の菅野貴仁です。

1年 清水 蒼也



東京都私立立教池袋高等学校出身、経済学部経済学科一年の清水蒼也です。

1年 鈴木 純



愛知県私立名古屋高等学校出身、経営学部経営学科一年の鈴木純です。

1年 鈴木 梯哉



千葉県千葉市立稲毛高校出身、経営学部経営学科一年の鈴木梯哉です。私は小学校一年生の時にテニスを始めました。高校入学まではテニス部がない環境にいたので、テニスクラブに通ってました。ジュニアの試合をメインに出場していたため、団体戦を経験するのは高校が初めてでした。私の高校のテニス部はそれほど力を入れてはいなかったのですが、経験者の私が率先して部活動に取り組みました。一年生からシングルスと一年生先輩に対しては、先輩のシッパを發揮してきたつもりです。私は大学でこのリーグシップを生かしてつづつ、テニスを通して社会性を学びたいと思って体育会テニス部への入部を決意しました。入部前にインカレ出場を目指して大学で試合に臨みましたが、春夏と二次予選で敗退し、リーグ戦では勝利したものの一試合しか出場することができませんでした。来年は個人戦でのインカレ出場とリーグ戦での二部昇格を実現させます。そのためにも、日頃の練習から日常生活までしっかりと自己管理できるように人間を指します。また社会性を学んでいくためにも、学業に専念できる環境づくりを努め、文武両道を一番の目標として部に貢献していきたいです。

埼玉県私立立教新座高校出身、現代心理学部心理学科、一年の武市元氣です。私は高校で立教新座高校に入部し、テニス部に仲間とともに切磋琢磨し、チームで戦うことの素晴らしさを学びました。特に団体戦ではSSで出場し、チーム全員と勝利の喜びと敗北の悔しさを分かち合い、とても貴重な経験をすることができました。大学で体育会テニス部への入部を決意したのは、もちろんチームでの共闘をもう一度味わいたいという気持ちもありました。一番の理由は大学でテニス部に入らなかつた高校の仲間と誇りに思っている存在にならなかつたからです。入部当初は、高校までの部活との違い、部員全員の意識の高さに戸惑うことばかりで、本当に迷惑をかけてしまっていました。大学生活という新しい環境への不安もあり、精神的、身体的に辛い生活でした。しかし親身になって話を聞いてくれる同期や先輩方、両親、そして高校の仲間のおかげでここまで頑張ることができました。リーグ戦ではサポートとして選手を支援する立場で貢献しました。自分ができる限り出ることができない悔しさはありますが、コートで一生懸命戦う先輩や同期を見て感動を覚えることができました。

1年 武市 元氣



神奈川県横須賀市立横須賀総合高校出身、コミュニティ福祉学部コミュニティ政策学科一年、樋口勇矢です。私は小学二年生の時にテニスを始めました。小学・中学ではテニスクラブで週末に年配の方々と一緒にテニスを楽しんで遊んでいました。高校に入ってからは、高校一年生の時から団体戦を経験し、小・中・高校とは違った、テニスで勝つことの楽しさを知り、それからテニスの面白さにはまっていき、高校三年の時に臨んだ引退試合で悔しい負け方をしてしまい、この時、大学に行ってもテニスをしようという考えをもちました。立教大学のOGの方や、他大学のテニス部の方に立教テニス部の話を聞き、立教大学のテニス部で真剣にテニスをしたいと考え、受験を決意しました。大学に合格してからすぐにテニスに集中できる環境を整えていき、迷わず入部しました。

1年 樋口 勇矢



埼玉県私立浦和学院高等学校出身、経営学部経営学科一年の前島克哉です。私は小学校三年生の時にテニスを始めました。中学生の時からテニス部に所属し、団体戦を経験してきました。中学と高校の両方でテニス中心の生活を送ってきました。その中でも特に高校の頃は毎日休みのあまりない中、厳しい練習をしてきました。しかし、その毎日つらい練習をチームのみんなと励ましあつて乗り越えていくことで、団結力が生まれ、団結力が武器となることができました。そして僕自身の最後となる、秋の選抜大会で個々の力では完全に負けているチームに勝利し、全国大会に出場することができました。これはチームの全員が一つになつて戦ったからだと思います。このように、ことごとく私には、もう一度あのような体験をしてみたいと思うテニス部に入部することに決めました。

1年 前島 克哉



静岡市立高等学校出身、経済学部、経済政策学科一年の山本祐太です。私が高校の時は、学校の部活と地元富士宮のテニスクラブで練習をしてきました。部活では、団結力や達成感、部員の大切さ等、部活でなければ味わえない事を学んできました。また、テニスクラブでは、技術面、体力面を中心に時には精神面などを指導されてきました。私が大学生になり一番大きく高校時代と変わったと思うのは、テニス面では部活のみでの練習となつたことです。また、生活面では、独り暮らしを始めたことだと思えます。部活のみの練習では、学生が主体となるため、自らの積極性が必ず必要であると思えます。さらに独り暮らしは、思っていたよりも大変であり、洗濯、食事などの家事を自分でしなければならぬ、食事に気をつけては栄養バランスも考えなければなりません。大学生活は、高校生活よりも厳しいものだと思います。ですが、その分学ぶことも多いため、大学生活では、高校の時には感じることの少なかつた家族、コーチの支えを胸に自身レベルアップを図りたいと思います。大きなものを得るために、日々精進していきたいと思っています。

1年 山本 祐太



男子部マネージャーを務めさせていただいております。私立立教女学院高等学校出身、経営学部経営学科一年、青木柚香里です。大学入学当初は、体育会に入部することを考えておりませんでした。しかし、これといってやりたいことも、目標も見つからず、思い描いていた大学生活とは異なり、物足りなさを感じていました。そのようなときにテニス部の練習を見学する機会をいただきました。本気で目標に向かって努力する姿とその強さに圧倒され、この人たちと一緒に頑張りたいと思ひ、サポートする役割に挑戦させていだいておりました。

1年 青木 柚香里



男子部マネージャーを務めさせていただいております。経営学部経営学科一年、勝呂悠加です。私はテニス経験がない上、初めてマネージャーに挑戦させていたのですが、この部活に入部を決めて本当によかつたと思っております。慣れない環境や、初めての経験に戸惑うこともありますが、とてもやり甲斐をもち活動させていたという、部員からの「ありがたう」や「お疲れ様」の言葉は、大きなやり甲斐であり支えです。リーグ戦を経て、汗を流し、必死にプレーをする部員、応援する部員やOB・OGの方々の姿を見て、もっと部に貢献できる存在でありたい、自分も部員と共に成長したいと強く思うようになりました。今年に残留という満足のない結果となつてしまいましたが、来年こそは昇格できるような、部員のサポートに努めてまいります。

1年 勝呂 悠加



私立駿台甲府高等学校出身、コミュニティ福祉学部一年、井上陽です。入部してこの約半年間、私はケガに悩まされてきました。同期や先輩方にたくさん迷惑をかけてきました。思うように練習することも、目標も持つこともできず、正直苦しい時期もありました。しかし今、初めてのリーグ戦を乗り越え、こうして体育会テニス部でテニスを続けられていることに喜びと誇りを感じています。リーグ戦ではサポート側としてしか貢献することができませんでしたが、同期や先輩方が必死でプレーする姿を見て勇気づけられ、多く見ていることを学ぶことができました。家族のようになつて、立教テニス部のために、プレーでも貢献することが一つの目標です。リーグ戦で味わった悔しさを忘れることなく、昇格できるように意識を高く持ち、頑張ります。尊敬できる先輩方や最高の同期に出会えたことは一生の宝物です。また、私がこうして良い環境の中でテニスができるのは、私たちが暮らす家族や私たちが活動を見守り、応援してくださっているOB・OG皆様のサポートのおかげです。感謝の気持ちを忘れることなく、切磋琢磨、日々努力し、この四年間を悔いなく、全力で駆け抜けます。よろしくお願ひ致します。

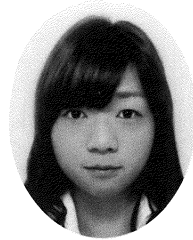
1年 井上 陽





1年 根本 奈々

茨城県立藤代高等学校出身、異文化コミュニケーション学部異文化コミュニケーション学科一年生。根本奈々です。春から本格的に部活に参加し、あっという間に約半年が経ちました。リーグ戦では選手として出して頂き、とても緊張しましたが、本当に沢山の事を学ぶことが出来ました。ダブルスでは先輩と組み、すごい緊張感の中強い選手と沢山試合をして、とてもいい経験になりました。同時に沢山の課題ができ、もっと強くなりたいと心から思いました。この気持ちを忘れずまた練習に励みます。入学当初は体育会に入ることが不安もありましたが、リーグ戦を終え、全員で団結し、同じ目標に向かって頑張ることの素晴らしさに改めて気づかされ、監督やコーチ、OB・OGの方々、男女関係なく、皆で戦う立教テニス部の環境にすごく感動し、本当に入部して良かったと感じました。またテニス面はもちろんですが、生活面でも先輩方のように素晴らしい人になれるよう頑張ります。



1年 盛重 翔子

千葉県立幕張総合高等学校出身、文学部教育学科一年の盛重翔子です。私は、小学一年生の時テニスを始め、高校三年生までの間にインターハイや全日本、全国選抜を経験することができました。遠征なども含めるとたくさん団体戦に出場しました。しかし、大学に入部して初めてのリーグ戦は、私にとってとても貴重な体験となりました。リーグ戦では、シングルスに出場させていただきました。格上と言われていた選手に勝つ喜びや、負けた時の悔しさが、皆さんのことを学ぶことができたと思います。今回のリーグ戦で自分に足りないものがたくさん見つかりました。大学四年間の時間は限られているため、無駄な時間を過ごさないよう日々努力をし、自分の課題を克服したいと思っています。来年のリーグ戦では、今年経験した悔しい気持ちをバネにし、一歩昇格に導けるよう努力をしていきます。また、今回の試合を通して、応援やサポートの力の大きさを感じました。私たちがこのように良い環境でテニスができるのは、OB・OGの皆さんのご支援があるためです。さらに、サポートをしてくださる監督やコーチ、家族など周りの方々にも感謝の気持ちを常に持ち、練習に取り組みたいと思います。



1年 柳澤 祥瑚

山口県私立野田学園高等学校出身、現代心理学部映像身体学科一年、柳澤祥瑚です。立教大学のテニス部に入学して半年以上が経ちましたが、やはり私が立教大学らしくてとても良いと感じたことは、対抗戦後やリーグ戦後、練習試合後にももちろん、練習中も各々の意見を言い合うことで常にフィードバック出来、自主的に向上出来る環境が整っていることです。アドバイスを学年関係なくしあつたり課題点を共有して、チーム全体で頑張っていることと部活が素晴らしいと感じるとともに、OB・OG、監督、コーチなど、チーム全体で頑張っている環境とつながりに感謝の念を持って、日々自分自身に挑戦していきます。また、あと数カ月で後輩が入学し、また新たにメンバーが増えます。立教大学体育会テニス部のおよそ百年の歴史と伝統とつながり、誇りを大切にしながら、その中で新しい挑戦をして、もっと立教大学テニス部という場所が素晴らしい場所になればいいと思います。一球一球を大切に打っていきましょう。

# OB・OGの声

## 「インカレ観戦記」

S45年卒 宇野 治

八月中頃、出口先輩から「女子部がインカレに出るので岐阜に行つて応援頼む」とのこと。「えっ！女子部が？」と半信半疑でインカレのHPを見て納得。シングル予選に立教大学・寺田美邑を発見、2回勝つて本選出場を決めていた。ダブルスには寺田・吉田恵美が本選に直接出場。小西（名古屋）、高橋（滋賀）両先輩に連絡するも、仕事で応援に行けず私一人で八月十九日に岐阜メモリアルパークテニスコートに車を飛ばしました。結果三日間通う事になった。

S54年卒 鈴木 康正

久しぶりのインカレ出場。寺田、吉田の両君は素晴らしい戦いでした。我々の時代の女子テニスとは大きく違い、レベルの高さを改めて知るインカレだった。もう一回勝てば東京からの応援もあつたようだが、早く来ていれば勝つたのでは、と。久しぶりのインカレ出場。OB・部員もどうしたら良いのか判らなかつたのか、選手・コーチだけに任せては勝てない！これからの奮起を期待したい。

S54年卒 鈴木 康正

今年の女子チームは、15年振りの1部挑戦と違っていた。振り返れば15年前その時の4年生が、入部した時は、その当時は我々四、五人で寂しいものだった。慶応はさすがOBだけでも十人程度、部員は二十人ほど。懐かしい顔ともしばし歓談。

S54年卒 鈴木 康正

「十五年振りの一部挑戦で思つ事」  
さて試合は、ダブルス一回勝つたがベスト十止まり。6-3、6-7(4)、1-6 慶応。シングルは予選から六回の試合をして準々に、他校も関心があるのか、応援が少し増えたようで、ファイナルセット。4-2になるポイントをとると、3-3から3-6となり立教大学久しぶりのインカレは幕を閉じた。3-

S54年卒 鈴木 康正

「富士見グラウンドテニスコート開き」  
富士見グラウンドのテニスコートがクレイからオムニに改修されました。コート開きに先立ち、2013年2月22日、チャプレンにお祈りをしていただきました。2月24日にはソフトテニス部と合同でコート開きの記念式典を執り行いました。強風の中、白石体育会長においでいただき、倉光会長のサーブで始球式をいたしました。素晴らしいオムニコートが完成し、またコートサイドの施設も充実しています。今年度のリーグ戦でも会場として利用いたしました。新しく生まれ変わった富士見のテニスコートを、今後もソフトテニス部とともに大いに活用したいと思います。

S54年卒 鈴木 康正

「学生のリーダーシップ活動について」  
テニス部の学生たちは、前述のジュニアアクリニックの企画・運営のほか、次のような活動を通してリーダーシップを学び、ザビスタスライニングを実践しています。

1. 新座市民スポーツ教室  
2012年11月25日新座キャンパステニスコートにて新座市民スポーツ教室が行われ、テニス部員が参加者の指導に当たりました。
2. 東日本聾者テニス協会選手との交流試合  
2013年3月2日富士見グラウンドテニスコートにて東日本聾者テニス協会の選手の方々と交流試合を行いました。聾者の方々と一緒にテニスをするという貴重な経験を通して得た新たな発見や様々な思いを今後の活動に生かして欲しいと思います。
3. リーダーシップ研修  
2013年3月16日テニス部長の日向野幹也先生のご指導のもと、ビジネス・リーダーシッププログラムの研修が行われました。現役の学生に加えOB・OGや高校生も交えたグループワークにより、異なる世代でひとつの問題に取り組む意見交換をする中で、組織の中でリーダーやメンバーの役割を学びました。普段接する機会の少ない世代との共同作業は貴重な体験でした。OB・OG・現役ともに、今後のテニス部の活動に活かしていきたい有意義な研修でした。このような機会をご提供いただきました日向野先生に感謝いたします。



# 中学・高校通信

## 立教池袋高校 「池袋高校庭球部の活動」

顧問 吉田 清典

恒例の須玉春合宿で2013年度をスタートしました。本校OBの吉田圭佑コーチ(体育会三年)を含む総勢6名が指導に当たってくれました。帰還後の練習初日、新設の真新しい学校コートに部員たちが整列しました。主へ祈りを捧げ新しい一歩を踏み出しました。横並び3面のコートは、以前よりも練習の一体感を生み出しやすと感じています。

五月のインターハイ東京予選(団)は主将・戸澤陸、副主将・伊藤宏一郎、主務・津久井健斗、副主務塚塚優斗らが率いるチームで挑みました。結果は6Rで日大三高に1-2と惜敗。初戦のダブルス伊藤・生松ペアが勝利したものの流れをつかめず結果都ベスト16。これをもって高校三年生の引退となりました。高三は体育会の練習に参加させていただいた経験を持つ生徒も多く、意欲的で最後までチームの主軸となった頼もしい代です。

代替わり後の新チーム役員(高二)は主将・田嶋一仁、副主将・山上貴士、主務・武田有弘、副主務尾谷昂大が選任されました。秋の新人戦(個)では、甲賀(高二)、山上がシングルスで学校ポイントを獲得しました(合計23点)。しかし、ポイントの不足から都上位16校に入ること

ができず、団体戦へは駒を進めることができませんでした。選手にとつて長く厳しい冬を迎えます。

## 立教新座中学校 「2013年活動報告」

顧問 吉田 清典

昨年度11月に行われた関東新人大会では、ベスト8の戦績を残すことができましたが、埼玉県には川口西中や越谷英進中といった強豪校があり、関東大会出場は一筋縄ではいかない状況にありました。

そんな中、5月下旬に行われた県大会では、関東大会の出場枠2枠をめぐって熱戦が繰り広げられました。立教新座は準決勝まで危なげなく勝ち上がることで、いよいよ越谷英進中との戦いが始まりました。ダブルス2本、シングルス3本の5本勝負で行われる団体戦ですが、準決勝では5本同時に行われました。



試合はシングルス2本を取られたものの、こちらもシングルス1本ダブルス1本を取ることで、勝負の行方は残るダブルスにかかりました。取られたら取り返すといったシーソーゲームの中、5-4で相手を追い詰めたものの、逆転を許し、敗れてしまい、関東大会出場を逃してしまいました。

団体戦では関東大会出場を逃したものの、個人戦では主将武田と山田のダブルスで、数年ぶりに関東大会に出場することができ、昨年度からの課題であった個々の選手の強化においては一定の成果がありました。こうして夏を境に3年生は引退し、新主将荒井を中心とした新チームがスタートしました。

8月下旬に行われた関東新人県予選では、3位に入賞することができ、3年連続関東新人大会に出場することが決まりました。今後全国大会出場を実現するために、チームの強化をはじめ、様々な面でご協力のほどよろしくお願い致します。

# ARTプロジェクト委員会

## 「活動報告」

H4年卒 増田 哲也

1. 増田委員長より  
ARTプロジェクト委員会 委員長 増田 哲也 (H4)

ARTプロジェクトがスタートして、お陰様で今年で三年目になりました。

6月16日に行なわれた小野田プロによるジュニアテニスクリニックも三回目を数え、立教大学体育会テニス部の活動は一般ジュニアに徐々に浸透し始めてきたと思えます。リーダーシップ活動の一環で、今年度からのクリニックスは学生を中心に運営していますが、アンケート結果から、参加したジュニアや保護者から非常に高い評価をいただいていることが分かります。また第一回に参加したジュニアのひとり立教新座中学を受験して入学、テニス部に入学してくれました。そのジュニアの保護者の方から、まさにこのジュニアテニスクリニックが受験のきっかけとなり、本人のモチベーションに繋がったとお話しいただいたことはARTプロジェクトとしても大変嬉しいニュースでした。

大学テニス部と新座高校・池袋高校テニス部との連携も一層密になり、普段の練習に高校生が参加することも珍しいことでは無くなりました。このような関係は、これまで

での本活動の積み重ねによるところであり、特に新座校の平山先生、久保先生、池袋校の吉田先生、重原先生のご尽力の賜物と感謝しております。この場をお借りして改めて厚く御礼申し上げます。またARTプロジェクトは、ジュニアや保護者の方々に立教テニス部の姿を見ていただく良い機会でもありますが、学生たちは非常に良い資質を持っており、練習の時とはまた違った顔つきで、規律の中にある立教らしい素直さや温かさがジュニアや保護者に伝わっていたように思いました。学生たちがサービスマスターを実践できる良い機会です。今後は是非続けていきたいと思います。

2. 第三回小野田プロによるジュニアテニスクリニック

2013年6月16日新座キャンパステニスコートにて、大学テニス部のコーチをお願いしている小野田プロにご指導いただき、小学5年生から中学3年生までのジュニアを対象としたテニスクリニックが行われました。当日は朝から雨でしたが、29名のジュニアが集まってくれました。会議室で開会式を行い、倉光会長よりご挨拶をいただきました。その後メンタルトレーナーの笠原コーチ、栄養学の高野コーチ、そして小野田テクニカルコーチに講義をしていただきました。ジュニアと一緒に保護者の方々も受講され、熱心に耳を傾けていらつしやいました。午後からは雨が上がり、オンコートでレッスンをを行いました。最初は表情が硬かったジュニアたちも、学生たちの明るい掛け声で次第に緊張もほぐれ、元気がいっぱいになりました。小野田プロにはジュニアひとりひとりに丁寧にご指導いただき、また学生たちもジュニアが楽しく練習できるよう気を配りながらレッスンを進めていただきました。小野田プロや学生たちのプレーに目を輝かせ、一心にボールを追うジュニアたちの姿が印象的でした。

天候による急なスケジュール変更がありまし

たが、コート割りやレッスン内容など学生が臨機応変に対応し、滞りなく実施できました。テニスの技術指導だけでなく、メンタルや栄養面の講義も盛り込み内容の充実した有意義なクリニックでも満足していただいたようでした。このクリニックは、ジュニアや保護者の方々に立教テニス部の姿を見ていただく良い機会でもありますが、学生たちは非常に良い資質を持っており、練習の時とはまた違った顔つきで、規律の中にある立教らしい素直さや温かさがジュニアや保護者に伝わっていたように思いました。学生たちがサービスマスターを実践できる良い機会です。今後は是非続けていきたいと思います。

3. 立教学院合同練習会

2012年11月23日新座キャンパステニスコートにて行われる予定でしたが、雨のため中止となりました。雨のため中止となりました。雨のため中止となりました。

4. 中高との連携  
関係校の合宿に学生・OBが参加しました。  
池袋中学校夏合宿  
2013年7月22日  
山梨県須玉にて  
新座高校夏合宿  
2013年8月11日  
新座高校にて  
新座中学校夏合宿  
2013年8月18日  
山梨県山中湖にて  
このほか、中学生には積極的に大学の練習に参加していただいています。学生・OBが中高の

練習に向いて技術指導をしたり、公式戦の応援に行くなどオール立教で後押ししています。また大学リーグ戦には中学生や先生方も応援に駆けつけてくださり、戦う選手たちの大きな力となりました。

5. 第二回ART女子練習会

2013年3月24日新座キャンパステニスコートにて女子関係校である香蘭女学校高等科テニス部と大学女子チームによる練習会が行われました。昨年に続き今回で二回目となるこの練習会ですが、普段は後輩の練習相手や玉出しばかりの高校生が、大学生の指導のもと思い切り練習することができて満足そうでした。ランチタイムには賑やかなおしゃべりが飛び交い、女子練習会ならではの楽しい交流の時を持つことができました。また進学や大学生活などについて高校生から質問や相談を受ける場面もありました。今後もこのような姉妹関係が続くと同時に、関係校からの入部者に期待したいと思います。

計報  
小笠原 潤先輩 (昭和三十四年卒)  
久保山 泰先輩 (昭和三十六年卒)  
一条 正志先輩 (昭和二十七年卒)  
平成二十五年三月二十日  
平成二十五年十月二十一日